

総合スポーツ施設の立地機能と整備計画

—長野県菅平と神戸市しあわせの村—

秋定辰昌

キーワード：レクリエーション活動，ラグビー合宿，スポーツ教室，利用継続性，
都市圏

1. 研究の目的と方法

伝統的に地域は生産と消費の場であった。近年、多くの地域で都市化が進み、都市に生産と消費が集中する傾向にある。現代の特徴として、昼間に都市部で労働し、夜間に都市部から少し離れた近郊地域で居住するという、いわゆるドーナツ化現象がみられる。また、少子高齢化に伴い、地域は多様化を求められている。地域には生産と消費以外に娯楽やレクリエーション活動の場が必要とされているのである。つまり、地域にはあらゆる個人が趣味やスポーツを実施できるような、集団で運動ができるような場が求められているのである。そこで、研究対象として考えたのが宿泊施設を兼ね備えた総合スポーツ施設である。

本研究では、都市域から遠く離れた長野県菅平高原と、都市圏内にある神戸市しあわせの村について比較検討する。私は菅平高原に1998(平成10)年に初めて訪れスキーとスノーボードで利用した。また、同年から2000(平成12)年まで大学ラグビー夏合宿で3度利用した。そのとき、菅平高原の設備の充実と大きさに驚かされた。グラウンドの数、グラウンドの分布、合宿チームの数、利用者数がすごいのである。また同時に、どのようにしてこれらのスポーツ施設が整備されてきたのか、利用者数などの利用状況はどのように変化してきたのかということに興味をもった。総合スポーツ施設の整備過程と利用状況を調査し、長野県菅平高原と神戸市しあわせの村を比較検討することを本研究の目的とする。

研究方法については、現地調査と聞き取りを主として資料を収集整理する。また、各施設はホームページを公開しているため、各ホームページからも情報を取得する。調査結果から総合スポーツ施設の立地機能と整備計画について比較検討する。

2. 長野県菅平高原における総合スポーツ施設の立地と整備

菅平高原のある真田町は、本州のほぼ中央に位置し、東は群馬県嬭恋村に接し、南は長野県東部町、上田市、坂城町に、西北部は更埴市、長野市、須坂市に接し、東西約19.6km、南北約17.2kmの台形型をした、面積181.90km²の町である。

図1から分かるように、菅平高原は真田町の最北端、四阿山(2,354m)と根子岳(2,207m)の麓の標高1,200mから1,500mに位置する。昭和のはじめよりスポーツ観光地として発展し、今では年間130万人もの入込み客が訪れる。冬は全国でも有数のスキー場として、おおいに賑わう。また、ラグビーやサッカーの合宿地としても知られ、全日本チームをはじめとして800以上のラグビーチームが全国から集まる。テニスの合宿も盛んである。また、サニパーク菅平は総合スポーツ施設として注目を集めている。

菅平高原がラグビーの合宿地として利用される以前は、ほとんどの土地が農地または荒地だった。ラグビーの合宿地として利用され始め、グラウンドの需要に伴い、農地や荒地が重機によってグラウンドに変えられたのである。

初め、スキー場として誕生した菅平は、1927(昭和2)年の暮れからスキーヤーの受け入れ

を開始した。当時はまったくの寒村で、比較的大きな百姓家が数件、民宿として宿泊客を受け入れるような状態であった。そのころ、当時の上田丸子電鉄会社が菅平の将来性を期待し、菅平ホテルを建設したのである。続いて文部省が高原体育研究所を開設し、東京文理科大学(現、筑波大学)も高原生物研究所を建設した。いずれも1930(昭和5)年から1932(昭和7)年までのことで、当時、オリンピック冬季大会に初参加する日本選手団の合宿も行われた。あの、まぼろしに終わった1940(昭和15)年の冬季オリンピック開催地、札幌に対抗して志賀高原、霧ヶ峰高原とともに立候補を表明したこともあった。このような状況のなかで、図2のようにグラウンドが造成されラグビー合宿が始まったのである。

菅平ラグビー合宿の今日の地位の確立は、恵まれた自然環境はもとより旅館経営者の営業努力の結果である。1931(昭和6)年に法政大学が初めてこの地を踏んでから70年が経過した。現在、菅平のグラウンドは87面を数え、合宿をするチームは1,270を越え毎年増え続けている。また、ラグビー以外にもサッカーやアメリカンフットボール、テニス、陸上競技などの合宿も増えている。合宿以外にもパラグライダー、ハングライダー、マウンテンバイク、サイクリング、ハイキングや、マレットゴルフ、グラススキーなどのファミリースポーツなども行われているのである。

また、菅平高原の冬の中心的スポーツであるスキーのゲレンデではスキーリフトが建設されてきた。スキーの歴史はラグビーの歴史より古い。スキー場の整備にも力を入れていることが分かる。スキー場やグラウンド以外にも、菅平高原ではテニスコートも数多く造営されている。

菅平高原の入込み客数は、図3に示すように、1970(昭和45)年から1991(平成3)年にかけて増加しており、1991(平成3)年には140万人を越えている。それ以降はゆるやかに減少している。夏季と冬季の入込み客数を比較すると、ほとんどの年で夏季の入込み客数が冬季の入込み客数を上回っている。このように、菅平高原の夏季の入込み客数が多いのは、図4に示すように、いくつかのスポーツ合宿が行われていることが大きく影響している。菅平高原で夏季合宿を行なうチーム数は年々増加している。この夏季合宿が菅平高原の夏季の集客の柱である。

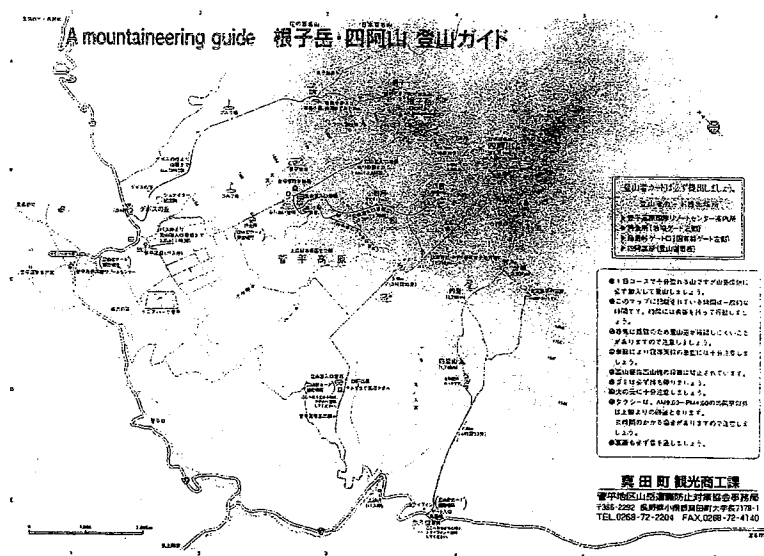


図1. 菅平高原の概観(出所:真田町観光商工課「根子岳・四阿山登山ガイド」より)

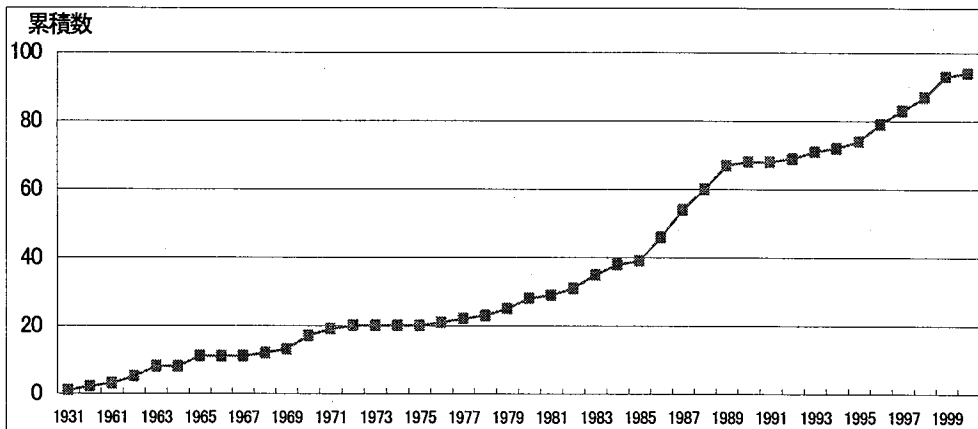


図2. 菅平高原のグラウンド数の推移(累積)
(出所：真田町ホームページより本人作成)

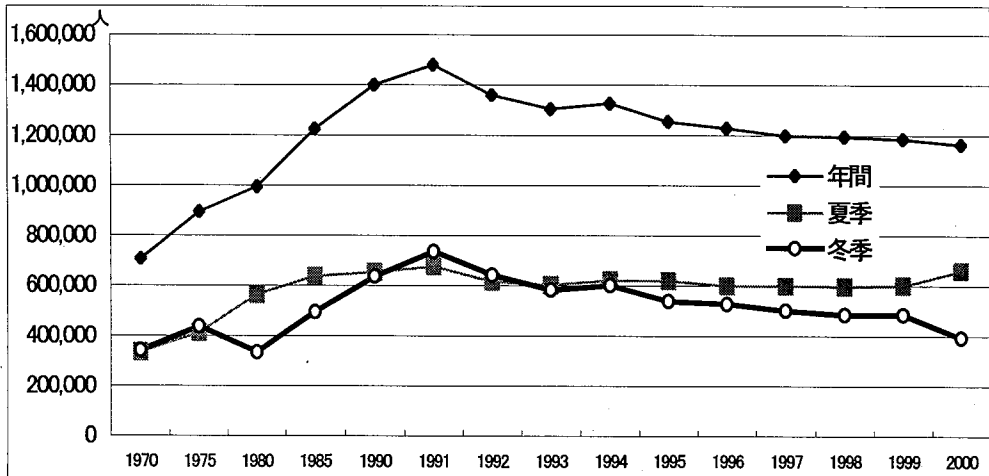


図3. 菅平高原の入込み客数の推移 (出所：真田町ホームページより本人作成)

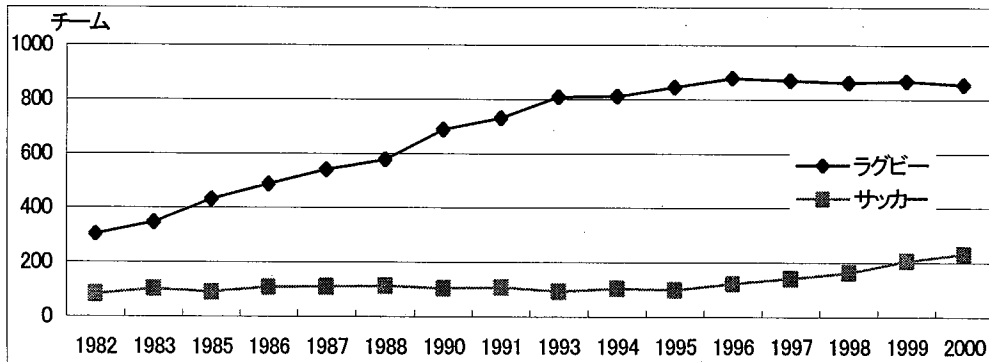


図4. 菅平高原の夏季合宿チーム数の推移
(出所：真田町ホームページより本人作成)

3. 神戸市しあわせの村における総合スポーツ施設の立地と整備

しあわせの村は兵庫県南部の神戸市に位置する。住所は神戸市北区山田町下谷上字中一里山14番地の1で、規模は総面積205ha、そのうち福祉施設ゾーンが46.1haで全体の22.5%、都市公園「広域公園」ゾーンが158.9haで全体の77.5%である。総事業費は約400億円、そのうち一般財源が156億円で全体の39%、市債が148億円で37%、民間法人等基金が40億円で10%、国県支出名が37億円で9%、その他特定財源が19億円で5%になる。

図5から分かるように、しあわせの村の諸施設は、大きく分類して、自立・社会参加実現のための施設、学習・交流・リフレッシュのための施設、屋外スポーツ・レクリエーション施設の3つに分類することができる。自立・社会参加実現のための施設および、学習・交流・リフレッシュのための施設はそれぞれ、集中して配置される傾向にある。これは、施設間の移動距離をできるだけ減らし、高齢者や障害者の負担を軽減する意図があると推測される。

しあわせの村のスポーツ・レクリエーション施設の概要と設置年度を表1のようにまとめる。この表から各施設は計画性をもって、順次建設されていることが分かる。これらの施設を利用し、ローンボウls、ソフトボール、グラウンドゴルフ、ゴルフ、バターゴルフ、アーチェリー、サッカー、駅伝、フットサル、テニス、ピクニック、バドミントン、水泳、ゲートボールなど、さまざまスポーツや運動が行われている。

しあわせの村の特色として、各施設を利用した水泳、卓球、テニス、アーチェリー、バドミントンなどの教室や講習が年間を通して実施されている。

しあわせの村の入村者数は、1998(平成10)年、1999(平成11)年、2000(平成12)年と200万人を越えている。また、図6には、しあわせの村のスポーツ・レクリエーション施設のうち広い面積を占める、野外施設の利用者割合を示す。これを見ると障害者の利用割合が24%となっており、このことから高齢者や障害をもつ人への安全や利用に対する配慮が十分になされていることが分かる。

しあわせの村の特色として、各施設を利用した水泳、卓球、テニス、アーチェリー、バドミントンなどの教室や講習が年間を通して実施されている。このスポーツ教室は高齢者、障害者、一般に分かれており、それぞれの教室に定員が決められて募集される。表2と表3から分かるように高齢者向け、障害者向けとも水泳教室の利用者が多い。また、表4に示す他の教室も利用者数が定員の過半数を越えている。これは、施設のよさとともに、多くのボランティアがこれらの教室の運営に積極的に携わっていることも理由の一つである。

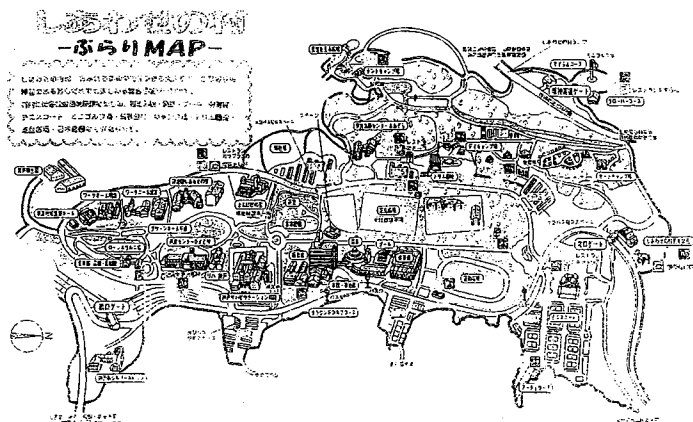


図5. しあわせの村の施設配置(出所:しあわせの村「しあわせの村ぶらりMAPより」)

表1. しあわせの村のスポーツ・レクリエーション施設の概要

施設	設置年度	内容
テニスコート	昭和 62 年度	約 3.6ha(駐車場を含む) 16 面(センターコート 1 面、一般コート 15 面)
アーチェリー場	昭和 62 年度	約 0.6ha 90m:6 脚 70m:8 脚 50m:4 脚 30m:7 脚
運動広場	昭和 63 年度	2.4ha 1 周 400m 6 コース
芝生広場	昭和 63 年度	7ha(北面芝生 1.6ha、中面芝生 1.5ha、南面芝生 0.9ha、 周辺樹木 3ha)
日本庭園	平成元年度	約 1.3ha 築山、野点広場、茶室、四阿、水無台、滝、せせらぎ、池など
ローンボウルス場	平成元年度	約 0.5ha 10 リンク(7 リンク 36m×36m、3 リンク 36m×16m)
温泉・プール・体育館 ・トレーニングジム (温泉健康センター)	平成元年度	温泉 寝湯、うたせ湯、庄注湯、気泡湯、枝じょう浴、 サウナ、スチーム、障害者専用浴室 屋内プール 25m×6 コース、小児用プール 体育館 1 周 120m 常時 卓球(10 台)、バドミントン(2 面)利用可、 バスケットボール(2 面)、バレーボール(2 面)、 テニス(2 面)、バドミントン(8 面)など 各種屋内スポーツ対応 トレーニングジム スポーツトレーナーによる指導 ベーシックエクササイズ 目的別エクササイズ
グラウンドゴルフ場	平成 2 年度	約 0.4ha(うち芝生 0.3ha) 8 ホール 236m
ミニゴルフ場	平成 3 年度	すずらんコース 9 ホール 1,476 ヤード クローバーコース(パターコース) 18 ホール 609 ヤード クラブハウス
馬事公苑	平成 5 年度	3.4ha 屋外馬場 9,600 m ² 、ポニー広場 708 m ² 、屋内馬場 2,100 m ² 、 クラブハウス 970 m ² 、他
野外活動センター あおぞら	平成 5 年度	鉄筋コンクリート造平屋建 宿泊室、レストラン、多目的室、ミーティング室、クラフト室
テントキャンプ場	平成 5 年度	約 0.5ha 25 サイト 170 人収容 炊事棟、キャンプファイヤー場、便所、野外卓、駐車場、 管理棟
オートキャンプ場	平成 7 年度	約 2.5ha 45 サイト 450 人収容 普通サイト上水道、 キャンピングサイト上下水道、電気、炉、流し台、管理棟、便所
デイキャンプ場	平成 7 年度	約 1.0ha 144 人収容 炉付テーブル 18 卓、炊事棟 2 棟、 駐車場
トリム園地	平成 7 年度	約 2.0ha 積木、山の砦、迷路、イカダ、花の谷ロングスライダー、他
球技場	平成 12 年度	約 2.0ha サッカー、グラウンドゴルフ、ゲートボール、ソフトボール、 フットサルなど多目的に利用

(出所:しあわせの村「総合福祉ゾーンしあわせの村」より本人作成)

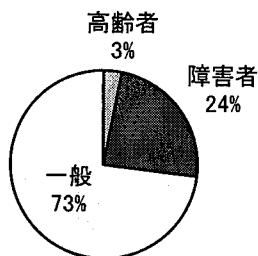


図6. しあわせの村の野外施設の利用者割合
2000(平成12)年

(出所：しあわせの村の聞き取り調査により本人作成)

表2. しあわせの村の高齢者向けスポーツ教室利用者数の推移

スポーツ教室	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
水中健康体操	117	115	118	124	120	123	118
入門水泳	122	121	124	123	128	128	123
中級水泳	129	126	129	129	126	125	127
運動シリーズ	147	106	189	172	173	186	180
卓球	120	83	118	124	125	128	124
バドミントン	44	32	50	52	53	45	55
テニス	136	247	239	257	248	264	268
アーチェリー	69	75	78	67	64	65	65
合計(人)	884	905	1,045	1,048	1,037	1,064	1,060

(出所：財団法人こうべ市民福祉振興協会企画課(2001)より本人作成)

表3. しあわせの村の障害者向けスポーツ教室利用者数の推移

スポーツ教室	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
心障児水泳	47	66	67	66	64	70	67
知障児水泳	66	69	70	69	68	70	71
身障者水泳	—	24	22	44	73	62	62
身障者卓球	61	37	48	47	44	54	62
身障児運動遊び	12	11	10	10	11	6	12
知障児運動遊び	24	20	24	23	25	21	22
テニス	53	73	96	85	74	74	86
アーチェリー	58	47	62	59	50	51	30
合計(人)	299	347	399	403	409	408	412

(出所：財団法人こうべ市民福祉振興協会企画課(2001)より本人作成)

表4. しあわせの村の一般向けスポーツ教室利用者数の推移

スポーツ教室	1994年	1995年	1996年	1997年	1998年	1999年	2000年
テニス教室	1,389	1,629	1,678	1,582	1,609	1,553	1,471
ジュニアテニス教室	169	203	249	229	253	285	256
アーチェリー教室	394	302	392	349	359	392	298
合計(人)	1,952	2,134	2,319	2,160	2,221	2,230	2,025

(出所：財団法人こうべ市民福祉振興協会企画課(2001)より本人作成)

4. 比較検討と展望

総合スポーツ施設は現代社会にとって必要なものであると、本研究によって私は実感した。長野県菅平高原と神戸市しあわせの村の100~200万人という利用者数、経営システムがそのことを裏づけている。

しかし、菅平高原としあわせの村はともに総合スポーツ施設でありながらも、立地機能や整備過程は異なっていた。まず、立地機能について、菅平高原は地理的に日本の中央部にあり、全国的に利用者が訪れる。また、地域外の利用が多い。それに比べ、しあわせの村は関西地方に位置し、神戸や大阪などの都市圏および近くの地域からの利用者が多い。

整備過程については、菅平高原は利用者数や利用目的など利用者のニーズに応じて、上信越高原国立公園内の農地や荒地がスポーツ施設として整備されてきた。しあわせの村は宮崎辰雄元市長を中心にして計画され、市街化調整区域が理念に基づいて整備されてきた。

このように、立地機能や整備過程は異なっているが、それぞれの特色を維持しながら総合スポーツ施設は運営されている。

参考資料

- 真田町観光商工課：根子岳・四阿山登山ガイド(B4版1枚)
- 真田町観光振興協会・真田町観光商工課(2000)：菅平高原(A4版6ページ)
- 真田町：菅平高原起点ルート/菅平高原わくわくステイ(A4版1枚)
- 真田町：さなだまち見どころ厳選ガイド(A4版6ページ)
- 真田町：信州菅平高原(A4版6ページ)
- 真田町：菅平高原スポーツランド・サニアパーク菅平(A4版1枚)
- 菅平高原国際リゾートセンター：菅平高原遊図(A3版1枚)
- 真田町観光商工課：菅平高原グラウンド年表 (B4版4ページ)
- 真田町観光商工課：菅平高原夏季合宿チーム総数(B4版1ページ)
- 鈴木秀丸：菅平高原の思い出(B5版5ページ)
- しあわせの村：緑あふれる総合福祉ゾーンしあわせの村(A4版39ページ)
- しあわせの村：総合福祉ゾーンしあわせの村(A4版4ページ)
- しあわせの村：しあわせの村ぶらりMAP/しあわせの村利用のご案内(B4版2ページ)
- しあわせの村：レストランマップ/村内レストラン・喫茶案内(B4版2ページ)
- しあわせの村：温泉健康センターの活用法(A4版4ページ)
- しあわせの村：しあわせの村宿泊館利用料金表/しあわせの村(宿泊、広間、会議室等)の予約ご案内(A5版2ページ)
- 神戸西部地区観光施設協議会(2001)：ウェストコーベぶらりマップ(B4版2ページ)
- 財団法人こうべ市民福祉振興協会企画課(2001)：しあわせの村利用状況等資料(17ページ)
 - しあわせの村利用者数の状況
 - 宿泊施設利用状況(地域別、高齢者・障害者別)
 - 宿泊施設での養護学校・障害者団体利用状況
 - 研修館の利用状況
 - 電動車イスの利用状況
 - アーチェリー大会等実績
 - テニス大会等実績
 - 運動広場大会実績
 - ローンボウルズ大会等実績
 - しあわせの村教室
 - 高齢者・障害者向け教室について

たんぼぼの家介護研修とリフレッシュ事業
ボランティア活動の促進について
しあわせの村教室等年間開催スケジュール
イベント等実施計画

真田町ホームページ <http://www.sanada.or.jp/>

しあわせの村ホームページ <http://www.shiawasenomura.org/>